



農業は、わたしたちの暮らしに欠かすことのできない「食」を支える地域の重要な産業です。

しかし、高齢化と後継者不足による担い手の減少、耕作放棄地の増大など、農家を取り巻く状況は厳しさを増しています。地域の担い手確保が大きな課題となっています。

農業に興味のある皆さん、今こそ、農業を始めませんか。就農への、はじめの一步、ご紹介いたします。



# 農業を始めませんか？

まずはここから

テレビ番組などを見て、農家や田舎暮らしに憧れを抱く人もいるのではないのでしょうか。

ですが、「明日から農業を始めよう」と意気込んでも、すぐに始められるわけではありません。「農業をやりたい」と思ったら、その日から準備を始めましょう。

就農に必要なこと

- ✓ 技術の習得
- ✓ 機械や施設・資金・農地の確保

技術習得には、松山市にある県立農業大学校で学ぶほか、JAによる栽培講習会受講、先輩農家に教わる、といった方法があります。

本格的に農業を始める前に、まずは自分が農業に向いているか、家庭菜園や自然農園を借りて実際に野菜作りにチャレンジしてみませんか。

## 自然農園って？

市内の耕作放棄地などを利用して開設しています。市内在住で、農薬や化学肥料を使わない野菜作りに興味がある人を対象に、1区画約50㎡の農地を貸し出します。

【農園数】市内34農園 【利用料】年間2,000円  
詳細は市自然農園を育てる会まで。

☎ 32-1207 ※(月)・(金) 13:00～16:00



気軽にご相談  
ください！



農林水産課 山口 優芽

農林水産課では、就農に関する相談を随時受け付けています。就農希望者から具体的な聞き取りを行い、県やJAなど関係機関と情報共有して、どのように進めていくかを協議します。

また、毎年2月初旬に就農相談会を開催しているほか、新規就農者（50歳未満）への支援も行っています。

### 新規就農者の資金面をサポート

新規就農者に向け、就農前の研修を後押しする資金（2年以内）や、就農直後の経営確立を支援する資金（3年以内）を交付しています。

詳細は農林水産省HPでご確認ください。



農林水産省 HP

### 4日に就農相談会

就農希望者を対象に、関係機関が新規就農支援制度、農地の確保、資金面などについて、個別面談を実施します。

**日** 2月4日(土) 9～12時

**場・問** JAえひめ未来

新居浜経済センター（坂井町） ☎ 41-5701



point!

### 就農までの道筋

#### 学習・就農相談

先輩農家や就農相談窓口に相談しましょう。特に新規就農の人は、農業体験などで適性を判断しましょう。

#### 目標を立てる

どこで、何を、どれくらいの規模で作付けするか、目標とする経営像を描きます。親や先輩農家などの農業経営を参考にしましょう。

#### 技術習得

目標を実現するために必要な技術を習得しましょう。

#### 設備投資

農業経営に必要な資金の借入れ、農地の取得、機械などを整備しましょう。

## 就農

### 認定農業者とは

認定農業者とは、今後の農業をけん引していく地域農業の中心経営体として、市が認定する農業者です。認定されると、人・農地プランと関連した支援

援を受けられたり、有利な資金制度を利用できたりするなどのメリットがあります。

5年後の経営拡大目標などの計画を立てる必要がありますが、制度に興味のある人は、ぜひご相談ください。

### 農家×クリエイター

波片<sup>はがた</sup>仁志<sup>ひとし</sup>さん

船木に農園を構える波片さんも、認定農業者の一人。市内のデザイナーや写真家らと商品を共同開発するなど、新たな試みに挑戦しています。

波片さんは、一人でも多くの人に自分が作った野菜を食べてほしいと学校給食用に出荷。しかし買取価格は高くない、継続が難しくなってきました。そこで農園の野菜で漬物を作って販売し、その利益で経費を賄うプロジェクトを始動。メード・イン・新居浜にこだわり、地元のカリエイターたちと一緒に商品を完成させました。

波片さんは「新居浜でもこんな面白いことができるよ」と、これからの農家さんに伝えたいと笑顔で語りました。



【写真】波片さんと地元クリエイターが共同開発した商品は、県内最大のデザインコンペでグランプリを受賞するなど、話題になりました。